

ヒロシマをつなぐ

原爆投下69年

㊦

8月6日、雨に包まれて、運営の半分以上1世は多い。遊川さん
れた広島市で開かれたを2世が引き継ぐ。だも母から懇切丁寧
広島県原爆被害者団体が、遊川さんは「体験いたわけではない。日
協議会主催の「原爆死者が語るインパクトは々の生活を送ることだ
没者追悼慰霊式典」。強い。車いすになってけで懸命だったし、2
運営を手伝う県被団協も活動する人を見る世への差別につながる
理事で被爆2世部会会と、そのエネルギーにという葛藤もあっただ
長を務める遊川和良さん「驚く」。1世の活動をろう」と親世代をおも



「2世として、原爆被爆者を支えながら核兵器
を使わせないという世論をつくりたい」と語
る遊川和良さん—8月6日午後、広島市

被爆2世 親ら支え世論喚起へ

ん(67)―広島市安芸区 支えることが、継承の
んばかる。
||は、数がめっきり減 一つの形になると意欲 加えて遊川さんは
った参加者を見て、被を燃やす。
爆者の高齢化をあらた だが、被爆2世がそ
めて肌で感じた。 のまま継承の担い手に
会場では、2世や3 なるとは限らないとも
世が運転手や案内とし 考える。自身の子に被
て付き添う姿も多く見 爆体験を語っていない

あつた親世代と違い、2世もいるという。 1世の被爆状況を詳し
「2世は遺伝的影響を 示す科学的知見が得ら 世部会は2011年を
れておらず、利害が一 度、2世対象の健康実 態調査を実施し、結果
致しない」と表情を曇 散すると、個人情報保 護の問題もあつて所在
らせる。実際「入って を行政への要望につな ぎ分からなくなる。関
どんなメリットがある げた。今年も内容をさ 係者をつなげる組織が
んや？」と投げ掛ける らに充実させて行い、 あることが大切」との
た。(中田佐知子)